

平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その1)

施策体系コード	5-2-3		事業名	ウインタースポーツミュージアム体験装置・展示品リニューアル
担当	観光文化局スポーツ部施設課 今野 TEL211-3045			
全体計画				
事業内容	平成22年にオープン10周年を迎える札幌ウインタースポーツミュージアムについて、ウインタースポーツの情報発信機能・疑似体験機能を強化するため、ウインタースポーツ競技団体やメダリスト、競技用具メーカーなどとの協働による展示品の収集・更新と、ジャンプシミュレーター等の大型体験装置の検討を行う。		＜年度別の事業内容＞	
			平成20年度	<ul style="list-style-type: none"> ・広告・協賛の手法の検討 ・展示品・体験装置の検討 ・観覧者のニーズの把握
			平成21年度	<ul style="list-style-type: none"> ・最新用具展示更新(以後毎年) ・その他の展示物収集(以後毎年) ・コーナーリニューアル設計 ・ジャンプシミュレーター設計
			平成22年度	<ul style="list-style-type: none"> ・コーナーリニューアル工事 ・ジャンプシミュレーター改修工事
事業内容・量・場	平成19年度事業内容(決算)		平成20年度事業内容(決算)	
	平成21年度事業内容(決算)		平成22年度事業内容(予算)	
事業所	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック映像使用权の更新 ・展示用備品等の購入 ・シアター映像装置の更新 ・地上デジタル放送対応整備 ・企業、競技団体の協賛等による展示品の更新 		<ul style="list-style-type: none"> ・企画提案コンペ方式による体験装置・展示等の更新 	
事業所	模		件	
等				

平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その2)

施策体系コード	5-2-3			事業名	ウインタースポーツミュージアム体験装置・展示品リニューアル		
達成目標の状況							
項目	18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (実績)	21年度末 (実績)	22年度末 (予定)	22年度末 (目標)	
観覧者数	121,946人	108,922人	99,114人	86,694人	65,000人	133,800人	
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
<p>■市民との連携、市民参加</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民等からウインタースポーツに関わる各種展示品等の寄贈あり。 <p>■企業等との連携・協働</p> <p>[資金協力] 最新用具等の展示品の協賛。競技団体等に競技用具・競技映像等の提供・借用等の協力を依頼。 [人材協力] (該当なし) [情報協力] (該当なし) [その他の協力] (該当なし)</p> <p>■市民・企業等が参加しやすい環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種競技団体等の協力を得るため、関連の展示スペース等を確保する。 							
評価(成果)			課題				
<p>○平成21年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 館内で使用するオリンピック映像使用权の更新により、引き続き各種コーナーを維持することが可能となった。 老朽化したシアター映像装置の更新により、映像を安定的、継続的に上映することができるほか、シアターを活用したセミナーの開催等あらたに積極的な事業展開が可能となった。 テレビ受信設備のデジタル対応化により、情報収集、提供機能を維持することが可能となった。 展示に係る備品を整備することにより、收藏品等を活用した新たな展示等積極的な事業展開が可能となった。 			<ul style="list-style-type: none"> 現在使用中のオリンピック映像使用权の期限が2020年(平成32年)3月31日であるため、映像の使用を継続する場合は、更新手続きが必要。 国内外からの観光客による観覧については世界的な経済状況の悪化や病気の蔓延などの影響を受けやすい。 平成22年度は、大型体験装置等のリニューアル工事の実施に伴い、閉館の期間が発生する。そのため、観客者数の減少が予想される。 				
今後の事業の予定・方向							
<ul style="list-style-type: none"> リニューアル後の大型体験装置に関する更新・改修について中長期の計画を立てる。 展示コーナーを一定のサイクルで更新するため中長期の計画を立てる。 最新情報・用具更新についてはできる限り費用を抑えながら更新頻度を上げることができるよう関係競技団体やメーカーとの連携を強化する。 指定管理者による施設の活用として、特別展、企画展や総合学習の場などを提供していく。 							

平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その3) (単位:千円)

施策体系コード		5-2-3			事業名	ウインタースポーツミュージアム体験装置・展示品リニューアル				
事業費の推移										
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計				
計画	事業費	0	3,700	27,800	100,500	132,000				
	財源内訳									
	国・道支出金	0	0	0	0	0				
	市の債	0	0	0	0	0				
	その他の他	0	0	0	0	0				
一般財源	0	3,700	27,800	100,500	132,000					
予算	事業費	0	0	20,000	120,000	140,000				
	財源内訳									
	国・道支出金	0	0	0	0	0				
	市の債	0	0	0	0	0				
	その他の他	0	0	0	0	0				
一般財源	0	0	20,000	120,000	140,000					
実績	事業費	0	0	18,284	-	18,284				
	財源内訳									
	国・道支出金	0	0	0		0				
	市の債	0	0	0		0				
	その他の他	0	0	0		0				
一般財源	0	0	18,284		18,284					
事業費の進捗率		(H19実績+H20実績+H21実績+H22予算事業費) / (計画事業費)					104.8%			
計画との差異(予算・実績・事業内容・規模・時期等)										
<p>[19年度]</p> <p>[20年度]</p> <p>展示品更新のための備品購入を予定していたが、予算化されなかったことにより、更新は次年度以降になるなど遅れが出ている。また、当初の予定年度に事業を実施できないことにより、計画期間後半に事業が集中することとなる。</p> <p>[21年度]</p> <p>当初計画はコーナーリニューアル及びジャンプシミュレーターの設計を実施するとしたが、H21年度末をもって一部映像使用権が満了となるためH21年度に更新することとした。また、使用権の更新費用を抑えたことによる差額により、シアター映像装置の更新及び地上デジタル放送対応整備を実施した。</p> <p>[22年度]</p> <p>日本宝くじ協会の助成金を活用することにより、企業等の協賛の手法を用いないこととなった。</p>										